

報恩講とは

浄土真宗の門徒が一年間で最も大切にしている仏事です。私たちの宗派の本山である京都の東本願寺では、毎年十一月二十一日から親鸞聖人のご命日の十一月二十八日まで勤められ、全国の浄土真宗各寺院では、その本山の報恩講に先駆けてお勤めいたします。

「報恩」とは「おかげさま」、「講」とは「集い」のことです。つまり、この私に阿弥陀仏の真実の法（お念仏の教え）を自らの生涯を尽くして明らかにし、お伝え下さった宗祖親鸞聖人に感謝し、そのご恩に報いようと、私たち門徒一同で勤める親鸞聖人のご法事のことです。

古くより真宗門徒の生活は「一年は報恩講に始まり、報恩講に終わる」という言葉で語り継がれてきました。自らの一年間の生き方を問い直し、心新たに聞法の歩みを再開する節目として是非ともご参詣下さいますようお願い申し上げます。

令和四年度 専修寺
宗祖親鸞聖人報恩講 嚴修

十一月一日（火）

おたいたい
大速夜

午後一時～

法話

午後一時四十五分～
午後三時十五分まで

法話二席

ごえでんえと
御絵伝絵解き
ごでんしやうはいとく
御伝鈔拝読

午後三時半～（上巻）
午後四時半くらいまで

布教使の法話後、
絵解きをスライドで紹介。
親鸞聖人の御一代記。伝統
的な拝読法により『上巻』
を拝読。

十一月二日（水）

けちがんにつちゅう
結願日中

午前十時～

報恩講最後、締めくくりの
お勤め。

法話

午前十時四十五分～
正午十二時まで

法話二席

布教使

びとびとみ
百々海 真師

（東京都 了善寺住職）

※今年度もコロナウィルス感染拡大防止策として院内僧侶と少数の他寺僧侶
でお勤めをします。参詣される方はマスク着用のうえソーシャルディスタ
ンスを保ちながら席に着いて頂きますようご協力お願い致します